

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 小澤秋沙

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

獣医組織学実習：各器官、組織における細胞の形態的特徴及び組織化学的特徴を理解することを目的とする。

動物解剖・生理学実習：比較解剖を通して動物毎の解剖学的特徴を理解する。また各器官、組織を構成する細胞の形態学的特徴を理解することを目的とする。

専門ゼミ：研究活動を通して、考える力を培うことを目的とする。

獣医発生学：獣医解剖学及び獣医組織学で学んだ身体構造がどのように形成されるのかを理解することを目的とする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医発生学	獣医学科	必修	2	183
獣医組織学実習	獣医学科	必修	3	150
動物解剖・生理学実習	動物応用科学科	必修	2	144
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	1
動物応用医科学特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	必修	1	3
獣医組織・発生学特論	獣医学専攻	必修	1	1
獣医組織・発生学特別演習Ⅰ	獣医学専攻	必修	1	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

解剖学分野の教育を通して身体を構成している器官の位置や構造などを表す名称を学ぶことで動物の専門科目における共通言語として習得することが第一目的である。しかし、解剖用語をただ単に暗記することが目的ではなく、各名称に含まれる意味を理解しながら、解剖分野のあとに学ぶ専門科目への意識付けをできるように心がける。

ただ知識として暗記するだけでなく、体の仕組みを詳細に理解するための基礎として理解させる。知識だけを詰め込み応用することが苦手な獣医師や社会人にならないように、持っている知識の応用を意識させ、自ら考え行動できる人物を育成する。

考える切掛けを与えるために、最初からすべての知識や答えを伝えることはせず、なぜこうなっているのかを問いかけながら、徐々にヒントを出しつつ学生自らが答えに行きつけるように誘導するよう心がけている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

実習でのスケッチの確認：質問する学生には双方向の対応が可能であるが、質問をしない学生の理解度を図り、もれなくすべての学生と双方向の実習にするために、個々の学生のスケッチ確認を行っている。

実習中の進行具合の把握及び助言：対面で実習が行えた場合は実習中の進行具合を確認し、必要がある場合は教員から学生に声をかけ、理解を促す。自ら質問を積極的に行わない学生に対しても気づきを与えられるようにしている。

実習内容の理解度の確認：実習内容の理解度を実習ごとのスケッチの確認と2単元分毎の試験で行なっている。試験では実習内で習熟すべき項目について、組織写真をスライドに投影し、理解度を確認している。

獣医発生学：獣医発生学は解剖学分野の解剖学および組織学の知識が備わっていることを再確認することを学生に意識づけるように講義を行なっている。成体での身体の構造がどのようになっていたかを想起させ、その構造が一つの受精卵からどのように形成されるのかを理解できるような説明をするように心がけている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習自体がアクティブラーニングの一つだと考える。獣医組織学実習では学生からの質問への対応は答えを学生自身が導くようにしている。

(2) ICTの教育活用

有

獣医組織学実習では5年前から実習中に教員及びTAがiPadを携帯し、学生からの質問に対して、模範となる組織像を示しながら対応している。プロジェクターでの組織像よりも鮮明な写真を使用して、1対1の対話形式で対応することが可能であるため、学生からも好評である。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義、実習の目的をはじめに解説することで内容の理解を促している。

(2) 学生の理解度の把握

A

講義科目での中間テスト、実習での小テストで理解度の把握に努めている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

講義で不明だった点についての質問を促すように努めている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

質問内容に加えて、理解を深められるように回答をすることに努めている。

(5) 双方向授業への工夫

B

実習中に理解が足りていない様子の学生には質問される前に声がけをするように努めている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

講義または実習の中で最近2～3年の間で国家試験で特に出題された内容とその周辺知識について、国家試験に出題されていることを伝えるとともに他講義との関連を理解することが重要であることを説明している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

予習復習の項目が低い結果であったが、実習では繰り返し受験可能な小テストを実施することで予習復習の時間が増えるようにした。獣医発生学では、講義内容に関係する解剖学及び組織学についての小テストをすることで予習を促した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

小テストによる予習については大多数の学生がよく対応していたが、受験しない学生も見受けられた。また、予習内容を講義の理解につなげているかは把握できなかった。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

予習のための小テストについて、今年度は講義内容3～4回分を3週間、何度でも受験できるようにしたが、受験期間を短くし、テスト回数を増やすことで、繰り返しによる予習復習効果が得られると考える。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義が体系的になっていることを意識づけされるようにしている。また学生の習熟度を上げるためには毎年学生が苦戦している部分については強調して説明し、重要な点についての意識付けを心がけ、質問に対する対応ではただ答えるだけでなく段階を踏んだ誘導を行い学生の理解を深めるようにしている。この復習講義は教員が学生に質問し、学生からの答えに教員は内容を追加するというようにアクティブラーニング形式で行った。これらのことを実施するために、コミュニケーションに重点を置き、学生が組織学に興味を持てるように取り組んでいる。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

日本獣医学会解剖分科会内での教育についての情報共有

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教育指導の改善及び向上を目指し、FD研修への参加によって研修で得られた知見を積極的に反映できるようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

学習意欲の高い学生のさらなる成長を促すため、講義、実習においても受け身ではなく「考えること」が身に付けられるような双方向の教育を目指したい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

講義プリント